

令和8年度 近畿・中部地区母子寡婦福祉研修大会が開催されました！

とき：9月13日(日) ばしょ：クレオ大阪中央

ひとり親家庭等の福祉団体は、当事者の視点を持って人と人とのつながりを深めながら、誰一人取り残すことが無いようにひとり親家庭や寡婦等の自立を図るとともに、その子どもたちが未来に向かって希望を持つことができるよう、ここに関係者が一堂に会し、本大会を開催いたしました。

○主催者挨拶



大阪市ひとり親家庭福祉連合会会長挨拶と全国母子寡婦福祉団体協議会副理事長による理事長挨拶の代読がありました。

○行政説明



こども家庭庁 支援局 家庭福祉課より

ひとり親家庭の現状についての報告があり、それを受けて、ひとり親家庭等の自立支援策としての「子育て・生活支援策」「就業支援策」「養育費確保等支援策」「経済的支援策」の4本柱のお話がありました。

また、具体的には地域で子どもの学習をサポートする場を増やし、新たに大学受験料等の補助を開始。子ども食堂や子どもの学び体験の場を増やす。資格取得を目指すひとり親家庭に対する給付金の拡大。所得が上がって児童扶養手当の受給対象から外れた場合は、給付金や貸付が利用できなかったが、1年間をめどに利用可能に。養育費の取り決め等の相談にのる弁護士報酬への補助などが挙げられていました。

○研修討議



・滋賀県母子福祉のぞみ会 母子副部長 発表

「知ることから始まる、母子の未来」支援制度を知って、その制度を活用していくことが極めて重要です。ハローワークの教育訓練を受講し、教育訓練給付金などもいただきました。

- ・石川県野々市市母子寡婦福祉協会 副会長 発表
「ひとり親と寡婦、共に育む子どもの未来」母子・寡婦が共に活動しています。人生の先輩の話を聞いてとても勉強になりました。会員関係なしの能登水族館の旅行は定員があつという間に達し、母子会入会も進みました。
- ・高石市母子寡婦福祉会 会員 発表
「支援を活かして、自立を育む」アメリカ留学中に結婚、三男が妊娠中にアメリカ人から離婚を言われました。いろいろ大変なことがありましたが、母子会に入会し助けられました。そういう周りからのやさしさがあり、子ども３人を育てあげることができました。
- ・富山県母子寡婦福祉連合会 母子部長 発表
「ひとり親と寡婦、共に育む子どもの未来」会員数が減少しています。母子家庭で子どもが自立すると退会しているようです。母子と寡婦の交流によって、その歯止めがかかっている感じがしています。
- ・大阪市ひとり親家庭福祉連合会 大学生 発表
「すべての子どもに安心と未来を！」ひとり親の子どもとして成長しました。母親は水泳、サッカー、空手、学習塾というようにやりたいと言えば全てに挑戦させてくれました。母子会の人も私を家族のように接してくれました。現在は大学生で建築の勉強をしています。これまでの感謝の気持ちとして、福祉連合会の活動に参加しています。

○決議・大会宣言



「児童扶養手当の所得制限限度額の引き上げ」「正規雇用の積極的な拡大、児童販売機の優先的な設置」「安定した住居の確保、保育所への優先入所、病児・病後児保育の充実、放課後児童クラブの優先的利用や減免措置」「不登校児童やヤングケアラーに対応するための相談窓口の充実及びカウンセラーの体制強化」「給付型奨学金の拡大充実」「養育費の支払い義務の実効性強化、養育費控除の新設、改正民法の広報・周知の徹底」「共同親権が望ましい場合と単独親権の方が適当と考えられる場合の基準の明確化」「居住区にかかわらず格差のないものとなるよう、国による新たなひとり親家庭及び寡婦の医療費助成制度の創設」「扶養親族のいない生別寡婦や未婚の寡婦に対しての寡婦控除対象者の拡大」 以上の決議が採択されました。

「ひとり親家庭及び寡婦のくらしの改善のために共に手を携え地域社会に貢献する団体として、総力をあげてひとり親家庭及び寡婦の福祉の向上のために力を尽くすことをここに宣言します。」 以上の大会宣言が採択されました。

○閉会のことば 挨拶

来年度の主催者（三重県母子寡婦福祉連合会）より閉会の挨拶がありました。

